

藤椅子の里帰り ～ウッズウォース先生から石本雅男先生を経て旧院長室へ～

学院史編纂室 池田裕子

4月23日午後、私は宮脇貢校友課長、林智義大学博物館事務長と共に逆瀬川にある故石本雅男先生(1902-2003)の旧宅に向かいました。東京にお住まいのご次女細田由紀子さんより、お父様が大切にされていた H. F. ウッズウォース初代法文学部長愛用の藤椅子(2脚)があるご連絡をいただき、拝見に上がったのです。

京都帝国大学出身の石本先生は、関西学院が大学(旧制)を開設する際、法文学部に赴任され、のちに初代法文学部長(旧制)を務められました。商学部で学んだ私にとっては、民法の授業でお世話になった懐かしい先生でした。先生は1948年に大阪大学に移られましたが、『大学要覧』を調べると、非常勤講師として1986年まで商学部で民法を担当されていたことがわかります。3つの大学(関西学院大学、大阪大学、神戸学院大学)で法学部開設に関われ、1984年に日本学士院賞を受賞された先生は、関西学院との出会いを次のように書いておられます。

昭和八年五月、はからずも京大事件(瀧川事件)に出会うことになった。京大事件というのは、京都大学の瀧川教授の学説が不当であるとして、時の文部大臣が大学の自治を犯して瀧川教授を免職する発令をして、大学の確立していた自治を無視したので、法学部の全教授がこれに抗議して辞職をした事件である。私もその時、教授と一緒に辞表を提出したのであるが、それは八月になってようやく認められたので、ただちに図書館の書物を返却し、研究室を明け渡して母校に別れを告げた...

秋も深まった頃に、関西学院の院長ベーツ博士から私の指導教授末川教授を通じて関西学院では来年四月から法文学部ができるので、教授としてその創立の仕事を担当してはくれないかという申し出があった*。私はこれを快く引き受けた。そして数日後にベーツ院長から、引き受けて頂いてありがとう、よろしく頼むという手紙を受け取った。そこで私は一度ベーツさんに会っておきたいと思い、ベーツさんを訪ねた。

その時ベーツさんは開口一番、「この大学では研究の自由は絶対に認めますので、心おきなく自由に研究して下さい」と言われた。そしていろいろな話のあとで私は、大学の法文学部長に内定しているウッズウォース教授(英文学博士)に紹介された。同博士は京都大学の文学部で外人講師として講義をしておられたので、京大事件についてよく知っておられた。そこで私は同教授に逢ったところ、同教授も「ここでは研究の自由は絶対に認める。どうぞ思うように研究をしてください」と言われ、「ただ一つ希望がありますが、それはこの大学では教授と学生のふれあいによる人格形成に重点をおきたいので、できることなら大学の近くに、せめて阪神地区に居を移して頂きたい」ということだった。私はそれを承諾し、甲東園に一軒家を借りることに決めた。

石本雅男『一世紀を生きて—石本雅男遺稿集』、2004年、鳳書房、49-50頁。

*『関西学院大学法学部五十年史』(2000)には、「私が関西学院大学に赴任するようことの勧誘をうけたのは昭和八年(一九三三年)十月中島重教授からであった」とある。(石本雅男「法学部創設時代のおもいで」、348頁)。



ウッズウォース家と石本家(女の子は長女扶美子さん)

『法文学部卒業アルバム』(1939)より



法文学部開設から5年経った1939年2月6日、ウヅウォース法文学部長は脳溢血のため急逝しました。3日後、中央講堂で営まれた学院葬には、京都帝国大学の石田憲次教授、西田幾多郎名誉教授の姿もありました。

石本先生の身にも大きな変化が訪れます。4月17日、新年度最初の講義に備え、早めの昼食をとろうと研究室を出たところに赤紙(召集令状)が届いたのです。報告を受けたベーツ院長は直ちに法学科全学生を集めました。

8月26日、ウヅウォース夫人は日本での生活を終え、横浜港からカナダに帰国しました。船旅とは言え、家財道具全てを持ち帰るのは不可能です。この籐椅子を始め、食卓や食器等、愛着ある品々を親しくなった石本家に譲ったようです。伸長式の立派な食卓は、由紀子さんが東京のご自宅でも使われているそうです。

ウヅウォース、石本両先生が愛用された籐椅子は、由紀子さんのご長男細田孝さんのご手配により、8月24日に無事、関西学院に到着しました。現在、ベーツ院長が執務されていた旧院長室に置かれています。また、これに先立ち、6月9日には石本先生が描かれた油彩画が法学部に寄贈されました。油彩画は孝さんご自身がお持ちになり、北山俊哉法学部長に贈呈されました。この作品はチャペルに飾られています。



【細田由紀子さんのお話】

もともと大きな椅子2脚 小さな椅子2脚と長椅子の5点セットでしたが、父は晩年小さな椅子ひとつだけを東京の私宅に運び、ずっと愛用いたしておりました。大きな椅子2つを〔逆瀬川の旧宅に〕残し、それ以外は処分してしまいました。父の話では、ウヅウォース先生は大変大柄な方だったそうで、共にいただいた書斎椅子も巨大で重く、既に震災後に父が処分いたしました。

〔この〕大きな籐椅子は、先生が来日遊ばした時に1脚持参され、日本の職人にコピーを作らせたとのことでした。

後日、由紀子さんご夫妻は、東京の青山霊園を訪ね、籐椅子を関西学院に寄贈したことをウヅウォース法文学部長の墓前に報告されたそうです。幕末から現代まで各界で活躍した人たち(大久保利通、小村寿太郎、北里柴三郎、松方正義、乃木希典、志賀直哉等)の墓所として知られる広大な青山霊園の中央部には、約120区画の外人墓地があり、ウヅウォース法文学部長はその一角に眠っています。関西学院関係者としては、R. C. アームストロング、D. R. マッケンジー、A. P. マッケンジー、J. C. C. ニュートンの次女、C. M. ブラッドベリーの子息の墓もあります。宣教師だけでなく、日本の紙幣・切手印刷の基礎を確立したキヨッソーネ、近代水道の父パーマー、近代窯業育ての親ワグネル等、江戸時代末期から大正期に来日し、日本の近代化に貢献した人びとが、この外人墓地には大勢眠っています。

私も仕事で上京した折、何度か墓参りに訪れました。大きな墓石の前でカメラのシャッターを押して欲しいと声をかけられたことがあります。それはあるフランス人のお墓でした。「母から聞いていたこの場所にやっと来ることができました。日本の方がこんなに立派なお墓を建ててくれて…」と感激しておられた子孫のお姿が今も臉に焼き付いています。



『学院史編纂室便り』第42号(2015年12月10日)

関西学院大学 学院史編纂室 〒662-8501 西宮市上ヶ原 1-1-155

TEL: 0798-54-6022 FAX: 0798-54-6462

<http://museum.kwansei.ac.jp/archives/>